



中丹高次脳機能障害者と家族の会

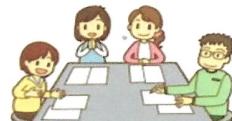
“さくらの会”便り

No137号 2022.8.1

発行責任者
会長 山本静子
編集責任者
事務局長 上原栄
Tel.0773-22-7859

—リラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えるところ—

当事者 家族 交流会 思いや希望を話しました 18名が参加して



7月10日（日）午前10時～12時、福知山市駅前町の「市民交流プラザふくちやま」にて18名が参加し開催されました。

山本静子会長の挨拶後、綾部市立病院作業療法士古川絵美様と堀江勇太様を迎えて、前半は、当事者と家族のグループに分かれての交流会、後半は当事者・家族グループ合同の交流会を開きました。

当事者グループには古川絵美様、家族グループには堀江勇太様の支援を得て、①最近の近況 ②良かったこと ③今後したいこと ④11月の交流会で行きたいところ、したいことをテーマに交流会。

後半は、当事者グループ、家族グループの交流会の状況を報告し、交流を深めました。



本音で話せた

（家族 K・A 様）

Zoomでの交流会には一度参加させて頂きましたが、体調不良やコロナウイルスの影響もあり久しぶりの直接対面。

やはり新加入の方や皆さんのお顔を拝見し、また当事者、家族が別れての交流会は本音で話せ有意義だと思いました。本音で



話せる部屋を分けての交流会は、短時間でも良いのでまた度々開催される事が良いかと思いました。コロナと上手く付き合いながら皆さんの息抜きの場が必要と改めて感じました。

こんな機会を増やして

（当事者 H・T 様）

交流会では対面で参加でき、自分の思いや趣味の話ができました。

自分の話ばかりではなく、他の方のお話を聞くことも大事だと思いました。

これからも当事者同士の交流会の機会を増やしてもらえばうれしいです。

（次ページへ）

(前ページから)

改めて学習の意欲が

(家族 Y・S 様)

先日はありがとうございました

家族の集まりでは、当事者とは違う悩みや想いがたくさんあり、同じ立場で話しが出来て良かったと思います。

時間が足りなくてテーマ全てを話すことが出来ませんでした。

当日の報告ではお話し出来ませんでしたが、日常生活のアドバイスを堀江先生からいただき、なるほど～と思う場面もありました。私も同じ病院に勤めていますので堀江先生、古川先生がリハビリだけでなく、患者様の気持ちに寄り添う声かけやその方を尊重する接し方をされている姿をみています。

機会が有ればそれぞれの家族、シチュエーションでアドバイスをもらえば良いのでは?と思いました。

おひとりの方はまだまだ高次脳機能障害がどういう事なのか分からぬので勉強したい。と言わっていました。私も分かったつもりでいましたが、改めてもっと勉強したいという気持ちになりました。100人100様を知る事によりもっと深く高次脳機能障害を理解して当事者、家族の幸せに一歩ずつ進んでいけたらいいなと思いました。

当事者の声をもう少し

(当事者 T・M 様)

今回も直接皆さんと話す事が出来て良かったです。

今回は、当事者と家族が分かれてそれでの交流会でしたが、当事者の部屋では、時間を持て余した様な感じを受けました。

家族の方々がオブザーバー的な形で同席

して、当事者の方に質問して、当事者の方の感じている事や思っている事などを引き出したりする様な時間を作っても良かったのかなあ~と感じました。

今後もよろしくお願いします。



少し気が楽に。。

(家族 K・N 様)

今回初めて「さくらの会」に参加させて頂き、家族の方は色々な苦労をされている事が分かりました。私も皆さんに日々の悩みを聞いて頂き、少し気が楽になりました。

しかし、それはほんの少し癒しに成るだけで解決の答えはありません。



人それぞれがどうやら少しでも幸せな生活が出来るのか?悩み考えて日々過ごしておられるのだろうと思います。

私も妻と一緒に頑張ろうと思っています。

小さな変化が嬉しい

(古川絵美 様)

ウェブや対面を重ねていく中で、少しずつ皆さんとのやり取りが和やかになっており、話される内容・量にも変化があり、その小さな変化を感じると嬉しくなります。

当事者のお話で印象的だったのが、「ヘルプマークをつけ、障害をオープンすることで周囲との距離が縮まった」というお



話です。障害を周囲に開示するまでに至る過程を想像すると、当事者・家族の間にどれだけの葛藤や苦難があったのか想像を遥かに超

(次ページへ)

(前ページから)

える作業だと思います。しかし、その苦難を乗り越え、オープンにしたからこそ得られた体験や関係性は価値があり、「生きづらさ」を少し解消してくれる手助けになる
と感じました。



相互交流を図る交流会で、自分のことをまた見つめ直しつつ、また明日から頑張ろう！という活力の場になることを願っております。

同じ境遇の悩み

(堀江勇太 様)

私は当日家族グループ側に参加させていただきました。

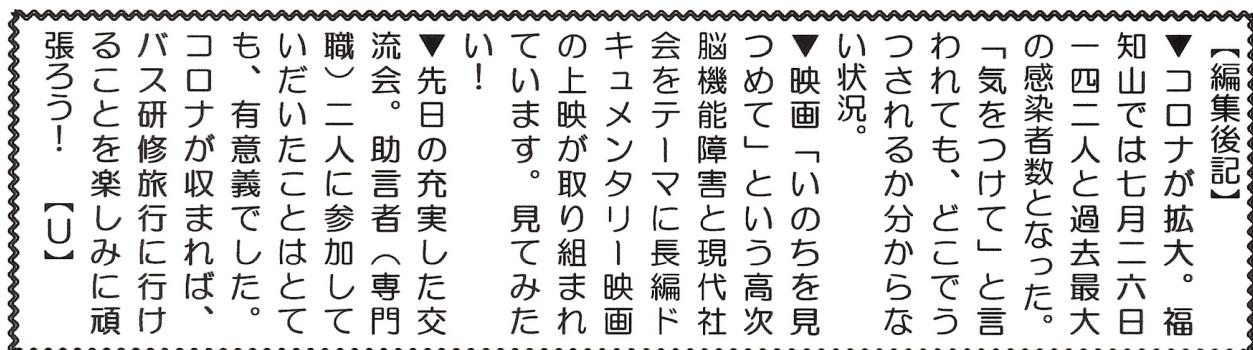
グループの話し合いの中で共通していたのは、当事者の家族として現在の関わりが合っているのか、どんな関わり方をしてあげたらよいか分からないといった意見が多い印象でした。

そんな中で周囲に相談できる方々がおらず、各々の家庭で考え悩みながら試行錯誤しながら生活を送られているのが現状でした。

今後も定期交流会等で各々の家庭での出来事を発信していく事で、同じような境遇を持たれた方々の意見やアドバイス等が出



てくる機会でもあるため、
今回のようなグループワー
クは継続していただきた
いと思います。



1 1月予定の交流会で
行きたいところ・したいこ
とは?ということで、出てい
た内容は、

- ①行けたらどこでも良い
 - ②宝塚歌劇団を見にいきたい
 - ③琵琶湖テラスでBBQ、芋ほり
 - ④六甲山、比叡山にロープウェイで登つて、山頂から眺めを楽しむ

等です。コロナ禍でわかりませんが、今後役員会等で検討をしていきます。

事務局 上原

施政とつながる学習会

高次脳機能障害リハビリテーション学習会が「ピアサポートで地域につながる、地域がつながる」と題して9月18日（日）午後、福知山市総合福祉会館で開かれます。「さくらの会」も実行委員会の一員として参加します。

詳細は別紙（4P）のとあります。

【編集後記】

赤い羽根共同募金助成事業



高次脳機能障害リハビリテーション学習会

～ピアサポートで地域につながる、地域がつながる～

(受付13:00～)

2022年 9/18 日 13:30～15:30

■個別相談会（希望者のみ15:30～16:30）



選べる二つの参加方法

会場参加

福知山市総合福祉会館 33・34号室

福知山市字内記10-18

会場駐車場は数に限りがあるため、市役所（有料）・伯耆丸公園（無料）をご利用ください。

オンライン（ZOOM）参加

各事業所・ご自宅（ネット環境があるところ）

※感染状況等によってはオンライン開催のみとさせていただく場合がございます。

参加費 無料

対象 医療・介護・福祉現場の支援者、
当事者、ご家族、住民一般

従来の「支援する・される」の関係ではない
ピアサポートの視点を学び、この地域での支
援の多様性について一緒に考えましょう。
高次脳機能障害者におけるピアサポートの活
動や実践紹介についてもお話しいただきます。

講師 中塚 圭子 先生

長年、病院で言語聴覚士として勤務。2002年から2011年
までカナダのピアサポート専門家と学術交流、研究調査
を実施。その間、日本版のピアサポートトレーニングプ
ログラムを作り、2007年から花園大学で実践。2009年に
ピアサポートの拠点を大阪脳損傷者サポートセンターに
移し、理事・個別相談を担当。



申込
方法

右のQRコードからお申込みください。
お申込み時に入力されたメールアドレス先に
参加に必要な情報を送りいたします。

【申込期限】2022年9月4日まで。



<https://forms.gle/yKyL2rYbx8C7GyG5A>

お問い合わせ

実行委員会事務局

足立（電話 090-1130-3918 メール chutan.n.cbr@gmail.com）